



# わかたけかなえ保育園 ほけんNEWS

2020年5月

蚊は気温 15℃以上で吸血し始め、26℃～31℃くらいで最も盛んに吸血活動を行います。散歩で歩く道や公園には蚊が多く潜む樹木がたくさんあり、今の時季から蚊に刺される機会が増えてきます。また、子どもたちはたくさん汗をかいて思いっきり遊ぶので大人に比べると蚊に刺されやすく、蚊に刺された反応が強くなりやすいことから、蚊よけ対策が必要な状況が近付いています。

## 「蚊に刺されないこと」を重視する対策をおこないます。

### 保育園での蚊よけ対策



- 水たまりや水の入った容器は片付けて卵が産み付けられないように環境を定期的に整備する。
- ピレスロイド系の虫よけ剤（吊り下げ式、電池式）を玄関内外、1階の保育室内、階段の中間踊り場付近に設置して駆除・忌避に努める。
- 刺されやすかったり、腫れて赤くなりやすかったりする子は、外出前に、薄手で少しサイズが大きめの風通しの良い長袖を着用させたり薄い色の服を選ぶようにしたりする。
- 子どもに水分補給を促し、汗をこまめに拭いたり、濡れタオルで冷やしたりして体内を冷ます。
- 屋外活動の際には、屋外に出る前に、子どもの衣服や帽子・靴、そして肌に、イカリジンを含んだ虫よけ剤（ミストタイプ）を塗布する。
- 屋上で活動する際は、虫よけ剤は使用しない。また正面玄関を通ることや道路に出ることを避けて、2階バルコニーや3階出入り口から屋上に出るようにする。

## 5月18日(月)から子どもに虫よけ剤を使用します。



保育園で使用する虫よけ剤は「**イカリジン**」に統一しています。

- 忌避剤イカリジンを5%含んだ虫よけ剤を保育園で準備します。外出する前にミストタイプの虫よけ剤を衣服や帽子・靴に噴射して、衣類から露出している腕や足には一度保育士の手にとってから塗ります。首より上、手首より先には塗布しません。
- エッセンシャルオイルや忌避剤ディートを含む虫よけ剤、虫よけシールは使用しません。
- イカリジンの使用を希望されない場合は、連絡帳やメールで保育園にお知らせください。

### ☆ **イカリジン**とは ☆

1986年にドイツで開発・販売された虫よけ効果のある成分で、日本でも2015年3月に承認・販売されました。イカリジンは、肌につけることで蚊などの虫が肌への着地を嫌がり、吸血を防ぐことができます。主に蚊、ブヨ、アブ、ダニなどに効果を発揮します。匂いもほとんどなく、肌への刺激が少ないため年齢に制限はなく、子どもにも安心して使える虫よけ剤です。日本では濃度15%が上限で使用されていますが、5%濃度でも最大6時間効果が持続します。また、合成繊維やプラスチック、塗装などを傷めてしまうといった影響も少ないとされており、承認・販売以降、今のところ副作用の報告はありません。

## 【わかたけかなえ保育園 虫よけ対策の経緯】

開園当初はエッセンシャルオイルを希釈した手作りの虫よけ剤を、その後は市販のエッセンシャルオイルの虫よけ剤を子どもの衣類に噴霧してきました。また、蚊に刺されると赤く大きく腫れる子どもや蕁麻疹が出るこどもには、家庭の依頼を受けて天然植物精油配合の虫よけシールを預かり、衣服や帽子に貼るなどしてきました。しかし、明らかな虫よけ効果は認められず蚊に刺される子は多くいました。

2015年にデング熱など蚊の媒介による感染症がクローズアップされたことを受けて、当園では蚊に刺されないことを一番に考えて、忌避剤ディートを含む虫よけ剤を使用することにしました。ただし、ディートは厚生労働省により使用できる年齢や回数が制限されていること、皮膚炎・蕁麻疹・神経障害・喘息発作などの副作用も認められていることから、家庭の要望を受けて使用することとしました。

ディートを使用したことで蚊に刺される子どもが激減しましたが、帰園後にはすぐにふき取ったり洗ったりして、肌への負担は大きく、注意深く見る必要がありました。副作用への懸念に加え、取り扱いに手間暇がかかることもあり、使用については検討していました。

その後イカリジンが承認発売となり数年の実態を確認した上で、2018年から「イカリジン」を使用しています。

### ☆ 昨年状況 ☆

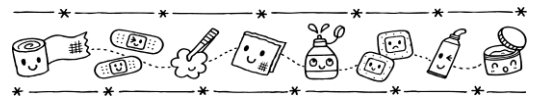
全員が忌避剤「イカリジン」を使用しました。「イカリジン」は使用する回数に制限はなく、腕や脚の皮膚だけでなく衣服にも使用できるので、屋外での活動中も噴霧したことで、蚊に刺される子どもはかなり少なくなりました。ただ子どもの体質や着ている衣服によっても違うようで、刺されやすい子、刺されてもしばらくして落ち着く子、腫れてしまう子、そして他の子より多く刺される子と分かれるようです。

また、近隣の状況から正面玄関前に蚊が多く発生していましたが、ピレスロイド系の虫よけ剤を24時間、玄関内や周辺に置いて使用したことで、登降園の際に玄関内や自転車置き場付近で刺されてしまう子どもも少なくなったようです。

### 家庭での蚊よけ対策に関する注意事項

- ★保護者が送迎時などに虫よけスプレーを使用する場合は、周囲を確認した上で保育園の敷地外で行ってください。園でおこなう忌避剤イカリジンとの併用が可能かどうかは各家庭で確認してください。
- ★虫よけシールは、取れたシールを乳幼児が間違えて口に運んで舐めてしまう危険があるため、園内への持ち込みや使用を不可としています。登園時の虫よけシールは保育園の敷地外で必ず外して、持ち帰ってください。リュックの中に虫よけ剤を保管することはお控えください。

### 蚊に刺された場合の処置



- ① 刺された箇所をつまんで毒素を出し、石けんや水で洗ったり、水で濡れたタオルやペーパータオルで拭いたりします。
  - ② 腫れや赤みが強い場合は、濡れたタオルや冷えピタ・保冷材などをあてて炎症やかゆみを緩和します。
  - ③ 刺されたり、かゆみや腫れがあったりする場合は、ムヒベビークリームを適宜塗ります。また刺された痕が悪化する子どもについては、刺された箇所をお知らせします。
  - ④ 子どもが掻きむしったため、血や浸出液が出たりしているときは、止血した後ムヒベビークリームを塗り、絆創膏やガーゼで保護します。
- ★ 家庭で処置する際に、掻き壊し防止のためのパッチタイプのシール、皮膚科で処方されたテープやガーゼを貼った場合には、登園時に連絡帳や口頭でお知らせください。薬が付いていますので、紛失などがないように管理する必要があります。なお、取れた場合には保育園で処分します。